

教授 山崎 英一 (男)
(ヤマサキ エイチ) (Eiichi Yamasaki)

◆ 学位	学位名	文学修士 大阪大学	
	取得方法	課程 平成1年取得	
◆ 学歴	大学	大阪外国語大学外国語学部英語科 昭和62年卒業	
	大学院	大阪大学大学院文学研究科英文学専攻英語学 平成4年 後期課程・博士課程単位取得後退学	
◆ 学内職務 (平成29年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 教職支援委員 ▪ 教員養成委員 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ FD委員 ▪ 	
◆ 担当授業科目 (平成29年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Extensive Reading 初・中・上 ▪ 専門演習 I~IV 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 英文法 I, II ▪ 英語学 	
◆ 職務上の実績に関する事項 (資格, 免許, 特許, 等)			
▪			
◆ 専門研究分野		◆ キーワード	
英語学	認知科学	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 語用論 ▪ 推論 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 関連性理論 ▪ 思考
◆ 研究概要	言語活動における表意と推意とからの人の思考プロセスの探究		
◆ 所属学会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本英語学会 ▪ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本語用論学会 ▪ 	
◆ 主要著書 (5件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 『ひとは発話をどう理解するか』 	共	平成6年2月28日	Diane Blakemore (1992) <i>Understanding Utterances</i> (Blackwell 社刊)の共訳. ひつじ書房.
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 『英語学用語辞典』 	共	平成11年1月10日	荒木一雄編. 三省堂. 数項目担当.
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 『「ことば」のからくり』 	共	平成16年3月15日	「解釈に干渉する文化的制約: 二重性仮説と文化的モジュール」執筆. 河上誓作教授退官記念論文集刊行会編収録. 英宝社.
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 『思考と発話: 明示的伝達の語用論』 	共	平成20年3月1日	Robyn Carston (2002) <i>Thoughts and Utterances - The Pragmatics of Explicit Communication</i> (Blackwell 社刊)共訳 研究社.
◆ 主要論文 (5件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 書評: Villy Rouchota and Andreas H. Jucker (eds.): <i>Current Issues in Relevance Theory</i>. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, 1998. x+368pp. 	単	平成12年12月	『英文学研究』第77巻2号. 日本英文学会.

書評 : Francois ▪ Recanati, <i>Literal Meaning</i>	単	平成 17 年 12 月 1 日	『語用論研究』第 7 号. 日本語用論学会.
研究としての英語学、授業としての「英語学」— ▪ 談話的空所化とその二分析を題材に—	単	平成 27 年 3 月 25 日	『四天王寺大学紀要』第 59 号.
▪ 授業改善についての一考察 : モジュールから見た「全体 vs. 部分」	単	平成 29 年 3 月	『四天王寺大学教育実研究実践論集』第 3 号.
▪ Yoshimura (2013) への注記 : 否定についての論考 -2	単	平成 29 年 3 月	『四天王寺大学紀要』第 63 号.
◆ その他 (5 件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所, 発表雑誌等, 発表学会の名称
学会発表「A Comparative Study of Japanese and ▪ English Conditionals in a Relevance-theoretic Approach」	単	平成 5 年 7 月 29 日	4 th International Pragmatics Conference
学会発表「On the Duality of Conceptual and Procedural ▪ Meaning: Some Data from Old Japanese and Present-day Japanese」	単	平成 8 年 3 月 29 日	慶応義塾国際集会「言語知識と認知のインターフェイス」ワークショップ
学会発表「Carston の意味的空仮説の意義について」	単	平成 16 年 12 月 11 日	日本語用論学会口頭発表(招聘)